

素波里ダムの隣にある素波里神社は、千年以上前から存在していると考えられている小さな神社である。この神社には、不動明王と呼ばれる恐ろしい形相の明王像が祀られている。不動明王像は、滝の近くや人里離れた山でよく見られる。素波里神社の起源は定かではないが、平安時代（794～1185）末期に、戦に敗れた豪族、安倍一族が不動明王をここへ持ち込んだという説がある。他の言い伝えでは、この恐ろしい形相の明王が、時折、脇にある不動の滝に打たれていたという。

素波里神社は幾度も再建を重ねている。最初は1692年、19世紀には少なくとも二度、そして最後に再建されたのが1938年である。また、1972年の豪雨により起こった素波里ダムの洪水に伴い、修復された。神社の建物は権現造りである。この建築様式は、拝殿と本殿が同じ屋根の下でH字型につながっている。毎年7月28日に祭りが開催され、不動明王の祀られた像が一般に公開される。

1938年以前は、素波里神社は不動の滝の近くにあったが、現在その滝は、素波里神社から西へ徒歩数分の、素波里ダムの水力発電所を通る道に沿ったところにある。不動の滝は、高さ約30メートルの直瀑の滝である。崖の表面から吹き出したシャワーのような水柱が、何も無いところを流れて下の滝壺に注ぎ込むことで、滝底に水しぶきの霧ができる。周辺の緑豊かな断崖から流れ落ちる水の下から眺められることから、「裏見の滝」（「裏の滝」を意味する）と呼ばれることもある。

流れ落ちる滝水の後ろ側を歩くことは可能であるが、足元には注意する必要がある。滝があるため湿気があり、多くの岩が苔で覆われて滑りやすいからである。